

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立星林高等学校

校長名：宇野 健二

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

「時・場・礼を大切にし、自ら学び、考え、行動できる」生徒を育てつつ、これまで以上に保護者、地域の信頼、期待に応えられる「地域中核校」としての魅力ある学校を目指す。

学校評価の公表方法

本校公式ホームページに掲載（3月）

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月21日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	一人一人の生徒に応じたより豊かで多種多様な自己実現のための進路指導のさらなる充実。	A	進路意識付けと振り返りによるより効果的な個別進路啓発 低学年指導、次年度0学期指導等の初期指導のさらなる充実 補習、スタディーサポート、模試分析等による正確で実効的な入試指導	学年進路アSEMBリー、進路講話、進路ホームルーム、面談等の計画的実施と充実 ・手帳等の定期的な有効活用指導と充実 ・現職教育等での進路情報全体共有 ・特別補習、通常補習の質的向上 ・和歌山大をはじめ国公立大、私立大合格者実績の前年度比増。	B B－ B－	年間進路指導計画にそって、適切な時期、内容で進路啓発は行えているが、実効的な精度を高めたい。 手帳の有効活用については課題を残す。全体の低学年からの進路意識底上げも引き続き課題である。 補習など計画的に進められた。最後まで粘り強く進路指導を継続している。	低学年次からの進路意識をさらに高めるべく、現職教育等による情報共有・収集で職員間の生徒現状認識や進路課題意識を学校全体として高めて行く必要がある。総合的な探究の時間「探究」を進路指導とさらにリンクさせ実効化を図っていく。
2	学習意欲、学力向上に向け自律的学習者としての成長をサポートするための探究活動を中心とした主体的な学びの実践。	B－	効果的、効率的な学習支援のためのICT環境の最適な活用。 適正なクラス、学習集団規模による、手厚くきめ細かな学習指導。 主体的、対話的で深い学びを実現するための探究的な活動の充実と深化	各授業でのICT活用事例の共有と教員研修、研究授業の実施 ・少人数クラスの継続実施と効果の検証 ・観点別評価を含む総合的評価のより適切な運用 ・「総合的な探究の時間」の学習内容の深化 ・研究授業等を通した「探究的」アプローチの検証と共有	B－ B＋ B	教員側の提示手段としてのICT活用は定着したが、生徒による活用拡大に課題を残す。 少人数クラス編成は一定の教育的効果が認められる。継続して効果を検証していく。 「総合的な探究の時間」の活性化必要。研究、公開授業は二度実施し、学びの場とできた。	ICTについては、R8年度からのBYOD導入も視野に入れつつ、生徒によるより効果的な活用法を模索する必要がある。 総合的な探究の時間「探究」をキャリア教育、進路教育的ベースにシフトすることで実効的な学習効果を上げたい。教員の学びの場をさらに拡大していきたい。
3	国際交流科を中心とする国際教育の充実、深化及び地域中核校としてのより特色ある教育活動の構築、展開。	B＋	より精度の高い国際理解、国際交流のための校内・科内行事、イベント等の充実と質的向上 教育課程外の校外活動などの多様な学びの場への生徒参加支援 時代のニーズに対応しつつ、持続可能かつ魅力ある科であるための魅力化、あり方の模索	・海外研修旅行、各種セミナー、留学生受入、姉妹校交流、講話、講演等の実施の工夫と改善。 ・英検等資格受験者への積極的な支援、受験者増。 ・海外研修、アジアオセアニア等校外国際交流活動参加人数増。 ・学校説明会やホームページを利用した魅力の積極的な発信 ・これからの国際交流科のあり方についての校内での熟議	A B B	1、2年ともカナダ研修旅行をリスタートし、生徒の体験的学びを活性化できた。訪問団受入も適切にこなせた。 長期留学生派遣、受入、海外研修等への実施、校外の学びの場への参加啓発は着実に行えている。 学校説明会等での積極的な魅力発信は丁寧に行えた。あり方についての熟議を深めたい。	国際交流活動においては再スタートできた。本来的な国際教育を推し進めるべく、研修旅行のあり方や時期等を含め、ビジョン委員会、部会等を通じて中期的な検討を進めていく必要がある。中学生保護者をはじめ外部への積極的な魅力発信に努めたい。
	生徒の実態を踏まえた生徒主体の丁寧できめ細かな指導・支援と、活動意欲向上のための積極的な生徒支援。	B	学校行事のきめ細かな構築と充実及び部活動の活性化 地域と連携した校外ボランティア、協同活動の充実 基本的生活習慣維持のための積極的な生活指導と、綿密な情報交換による丁寧な生徒支援。	・安心・安全の最優先、生徒主体の行事開催の工夫。 ・部活動加入生徒数前年度比増。 ・校内外の自主的活動、ボランティア活動等の活動内容の精選と充実 ・啓発等の予防的手立ての充実 ・遅刻・身だしなみ指導件数等の前年度比減 ・情報交換会、ケース会議の効果的な実施	A B＋ B＋	体育大会のインドア開催を定着させた。部活動加入率も3%増加した。委員会活動も活性化している。 校外各種ボランティア活動に継続参加する生徒が増加してきた。地域小学校との交流も活発に行えた。 指導件数は減少傾向だが、職員が一致した指導スタンダードが必要である。ケース会議による支援策のため情報共有は的確に行えた。	生徒会活動、特別活動等生徒が生き生きと主体的に活動できる手立ての精度を支援部を中心にさらに高めていく。ケース会議や全体会等による情報共有の場の適切な設定と支援の方策協議についても現状のスタイルをベースにさらに深めていく。

学校関係者評価（2月20日実施）

●授業等について：
・大学入試の多様化（推薦入試等の増加）に伴い、進路指導と総合的な探究の時間を中心とする「探究」的学びとのリンクは大切である。
・公開授業（第2回学校運営協議会）等で「興味関心を高める授業」が行われていたことは評価できる。
・各教科とも生徒の進路先や目的地を踏まえ、そこに直結するような内容で展開していくべきである。

●学校評価アンケートについて：
・「全体的に」「定期的に」といった文言の入った設問があり、個別に自分自身を振り返って答えづらくなっている。シンプルかつ具体的な問いで統一すべきである。
・個人としての質問としても、母体数が多いので、結果的に概ね正確な傾向がつかめる。
・マイナス評価が出た場合、自由記述式で具体的な改善点を記述できるようにしてはどうか。
・教員評価の中で「わからない」という項目の回答が高いものがあり、理解や周知を徹底すべきである。
・「生徒は生き生きと学校生活を送っている」という質問項目が常に高い評価で生徒、保護者の満足度の高さがうかがえる。
・行事等については、コロナで中止されていた時期と再開された後の差異がわかるような項目にしたい。
・生徒アンケートは経年の変化が乏しく、相対的な結果となっている。
・保護者アンケートも概ね肯定的評価が高く学校として良好と言える。
・「担任に相談したことがある」という項目は、「担任に相談しやすい雰囲気がある」等に修正してはどうか。

●その他：
・PTA総会等への参加は多くはないものの、授業参観では保護者の参加が多く関心を示してくれている。
・世界的なレベルで活躍している卒業生もあり、様々なロールモデルとして紹介していきたい。